

17/8/24 名古屋市議会経済水道委員会 メモ（名古屋市民オンブズマン作成）

豊田総務課長

請願の中身

- ・石垣と天守の保存を求めている
- ・耐震補強
- ・文化庁の前に寄付を集めない
- ・戦後復興のシンボルに

石垣について今後最優先に調査する

耐震対策 木造復元して耐震

寄付金 市として決定した 適宜丁寧の説明

戦後復興 木造で 引き継ぐ 価値を高める

藤井：4つの事項

1 石垣を毀損させず保存

今月9日 冒頭 河村市長コメント

どのような見解が示されたのか

渡辺主幹 8/9 読み上げる

内容： 「名古屋城天守閣木造復元に関して、参議院文教科学委員会において、『現状変更許可に当たっては現在の石垣の劣化状況等に関する現況調査を実施すること。現在の天守の解体・除却工事が文化財に石垣に影響を与えない工法でありその保存が確実にほかれること。木造天守の忠実な天守がなされるような具体的な計画内容であること。木造復元にかかる工事が文化財である石垣に影響を与えない工法であり、その保存が確実にほかれること』などが必要であると発言がありました。

私といたしましては、特別史跡である石垣をしっかりと保全していくことも重要であると認識していますので、石垣部会の構成員の皆様方のご意見を伺いながら、文化庁が指摘しているような石垣の保全について対応していきたいと考えております。どうぞよろしくご審議をいただきますようお願いいたします」

藤井：市長からも文化財としての石垣について保全

石垣を調査するに当たっては調査体制が必要

私も傍聴していた

有識者 調査体制 どのような課題が指摘されたのか質問

渡辺主幹：概ねご了承いただいていると事務局としては理解  
体制 現実的可能として組んでいく必要がある

藤井：市の主体性としてはどう言われたのか

渡辺主幹：名古屋市の職員側が把握していくべきと言われた

藤井：聞いていたが、「外部の調査を任せた事例は聞いたことが無い。」  
文化庁・中井調査官「基本的に市が主導権を持つべき。  
自治体によっては、発掘調査部会をもっているところもある」  
調査体制はどう考えているのか

西野所長「調査体制について指摘頂いたことは確か。  
教育委員会とも相談しながら、学芸員の職員が携われるように調整中」

藤井：「プロである学芸員がチェックしないと意味が無い」  
学芸員を増員してチェックするのか

西野所長：そういうことを含めて検討

藤井：新規採用か、他の部署から回すのか

西野所長：現時点ではそこまで

藤井：現時点では何も決まっていないのか

西野所長：現時点ではないと言うことでは、解決していない。  
プロがチェックしないと意味が無い。  
学芸員を増やすべきだ。  
文化庁の許可 求めるのは何を対象としているのか

渡辺主幹：まずは木造復元するために現状変更  
当面の目先 発掘等の調査を相談する

藤井：現時点では対応していない。これで許可は出来るのか

渡辺主幹：どのような体制でやっていくか検討、文化庁と話をする

藤井：調査は時間がかかる 体制も出来ていない 長期化する  
木造化であっても、耐震補強をするのは当然  
目標の耐震はいくつか

渡辺主幹：木造で復元することで  
まずは耐震対策は木造復元で

藤井：耐震指数はなにか たとえ木造であってもどうなのか

渡辺主幹：今の耐震指標 今の建築基準法の基準以上を求める

藤井：木造であれ、今の城であれ、耐震は必要  
石垣調査も必要 この請願は採択すべき

江上：3項目目 文化庁の許可云々  
請願者の人がこう言っている  
文化庁の許可 見通しがない  
無責任ではないか  
議会 6月議会で議決したが、不確かなままに寄付金募集をするのはおかしい  
私どもとしては耐震補強して博物館  
市民の声を聞く場を作れ  
戦後復興のシンボルを壊して役割を引き継ぐではない。  
2項目目 建築基準法を遵守し、名古屋城天守を耐震補強するのはどちらにしても必要

渡辺主幹：現時点での耐震補強  
耐震対策をやっていくに当たっては木造復元でやっていく考え

江上：市の方の意見を聞いても、当然やるべき  
3.4も採択すべき

中川：重複するところもあるが、事業を進める前提 石垣を大切にしてい  
どなたも異論が無いと思う  
学芸員 もっと積極的に関わってもよいと思う。  
名古屋城は学芸員何人か

熊本城・金沢城は学芸員何人か

西野所長：名古屋城 3名 8/1 から兼務で 1人 合計 4名  
熊本城 調査研究センター 組織の中 15名 学芸員 8名

中川：今は学芸員 3人 どこかに委託して何をさせているの？  
それで十分と思っているのか 認識を

西野所長：金沢城 調査研究所 所員は 16名 考古で 8名 その他 1名は确实  
名古屋城 学芸員の仕事 考古 1名  
障壁画 美術品 1名  
博物館 展示 1名  
兼務の学芸員が 1名増えたといえ、現体制では厳しい

中川：増やした方がいいという認識  
進めていくことがきっかけとしても、石垣部会の先生、文化庁  
理解を頂くためにはスピード感をもって強化すべき  
8月で 1人増やした  
今年度中にももう少し増やせないのか  
名古屋市プロパー 何名か増やせというのは難しいかも  
教育委員会からの支援を受けるのなら可能な範囲かな  
適材な人材がいるのか  
今年度 もう少し頑張って努力されては

西野所長：学芸員増強 教育委員会から相談は重要  
教育委員会からお願い  
ご説明してできるだけ協力して働きかけしたい

中川：今年度中にもう何名か増やす意思はあるのか。  
どれくらいの体制にしたいのか

西野所長：これから教育委員会と相談  
今年度中に増強したい  
できるだけ人数は多い方が 教育委員会の事情もある

中川：相手方があることがある 言いづらい

本当に多くの市民に理解を得、文化庁に理解を得るには、  
名古屋市の意思としては、教育委員会もあることなので言えないかもしれないが、  
来年度には予算を構え、市の学芸員を抱えていきたいとか、  
将来的には熊本城のような15人体制 明確にされた方が  
教育委員会「無理でしょう」といわれるかもしれないが、  
局の意思を発信していくのは大事だと思うが。

渡辺局長：体制の強化 局としては必要

今年度 どうしていくのか 8月増強お願いした

なかなか難しいかな

今度の調査 文化庁にお願いして、詳細調査 どういった体制が必要か

適正な人員体制が必要

来年度については将来にわたっての体制づくり 局の中で検討中

何人とは言えない 今は少ない

今後詰めていきたい

中川：将来的にお城木造していくから、学芸員必要、ではない

将来にわたって城をしっかりとっていく

語ってもらいたい

渡辺局長：将来像については、保存活用計画

二之丸庭園、多門櫓、木造復元していく物件はある

史実に忠実に復元しようとする調査研究が必要

これまでの体制ではとても出来ない

以前から文化庁から指摘があった

そういった研究体制を図っていきたい

中川：具体的に言ってもらえないか

せめて熊本城レベルにしていくとか

渡辺局長：規模的 熊本城 かなりの体制でやっている

望むことはそうだが、

金沢の3分の1

金沢までは目指していきたい

江上：地下1階 石垣と天守が接触する

石垣でどういうことをすべきか把握していたはず

8/9 はじめて気づくことではなかったのではないか

土台のこと

なぜこんな時点で文化庁申請時点で

8/9 石垣部会傍聴していて、直接市の当局ではないが、恥ずかしい

こんなに市の主体性がないのは聞いたことが無い

反省 どうしてこんな風になってしまったのか

西野所長：市の主体性 8/9 石垣部会で言われた

今回の木造復元 仕様が定められない

技術提案交渉方式 竹中案を優秀提案とした

提案に基づいて竹中と協定を結んで進めていく

事業を進めるには文化庁の現状変更許可 きちんと学術的にどうすべきか検討

それをしっかりとやっつけていこう 石垣部会、天守閣部会 案を決めていこう

民間からの提案 行政として進めていこう

学術的な検討 学術対応できる学芸員のマンパワーがさらに必要

江上：「学識者の意見を聞いて」

天守閣部会のかただと思う

立てることしか頭にない

ケーソンがあるから石垣は関係が無い ずっともってきていたのではないか

しかし、竹中工務店の案 石垣と天守閣 接触するのははっきりしていた

とっくにわかっていて準備しないと行けなかった

していなければ大問題

渡辺主幹：石垣については特別史跡 認識

まずは技術提案交渉方式 石垣をどう扱うかまずは調査する

把握した上で学識の意見を聞く

まずは意見を聞いた

江上：当初から認識していたのなら、石垣調査をしてから木造提案すべき

議会に対して失礼

局長から話してもらわないと

西野所長：竹中工務店提案 優秀提案

文化庁の現状変更許可を得られるか 学術的に検討

天守閣部会、石垣部会で検討  
その時点で提案通りできる  
学術的に考えて難しい→修正していく 検討の中でやっていく

江上：天守閣を作るには、ケーソンがしっかりしていればよいと思いついていたのではな  
いか

学識者 天守閣しか聞いていない  
石垣部会 「木造化するから検討願います」言ったことはあるか？

西野所長：話していない  
選定委員の中に石垣に詳しい人も入っていた

江上：体制の問題はそのとき言っていたのか

西野所長：「体制が不足している」8/9に頂いた

江上：皆さん自身も認識していなかったのか

西野所長：体制についての認識は持っていなかった

江上：考古学1人しかいなかった  
8/1 兼務 1.5人  
熊本城で8例にある 金沢城はもつという  
これは事業を進める体制になっていない  
請願なのでこれ以上言わないが、議会に対してそういう態度で臨むのは問題

委員長：正副委員長としては、2月定例会 予算議決  
議会意思確定として審査打ち切りにしたいが

江上：審査打ち切りとはどういうときか

- ・取り下げ
- ・権限がない場合

市議会反対、意見がある  
これから請願は全部審査打ち切りになってしまう

委員長：起立で賛成を決する

起立多数で審査打ち切り

江上：審査打ち切り

事実だけは説明を求めたい

委員長：過去に事例があったか無かったか判断

昨年継続審査をしたことを踏まえて正副委員長で判断

江上：議会運営委員会で議論して欲しい

委員長：事務局と相談しながら進めていきたい

もちろん正副で相談しながら、手法について